

# 高温に対する農作物等管理技術対策について

平成30年6月26日  
埼玉県農林部

6月21日（木）気象庁発表の1か月予報によると、向こう1か月の気温は高い確率が50%となっています。また、6月25日（火）には異常天候早期警戒情報が発表され、6月30日（土）からの1週間の気温はかなり高くなると予想されています。

高温対策として以下の農作物技術対策資料を作成しましたので、参考にしてください。

なお、高温・高湿下での農作業は、熱中症を引き起こしやすいので注意してください。

## 水 稲

- 1 高温時の除草剤田植同時処理は薬害を生じる恐れがあるので、田植後速やかに入水する。
- 2 高温により雑草の葉齢の進展も早いことから、特にノビエの葉齢に注意して除草剤の散布を適期に行う。
- 3 必要な茎数が確保できるまで浅水で管理し、茎数確保後は速やかに中干しを開始して田面に小ひびが入る程度までしっかりと干す。
- 4 中干し終了後は、間断かん水で根を健全に保つ。
- 5 基肥一発施肥体系でも葉色の低下が著しい場合は追肥を検討する。
- 6 イネツトムシ等の害虫の生育が早まっているので、病虫害防除所の発生予察等を参考に適期に防除を行う。
- 7 畦畔の草刈作業等は、農作業事故に注意するとともに、朝夕の涼しい時間帯に行い熱中症を予防する。

## 野 菜

### ◎共通事項

- 1 露地野菜では、敷わら、マルチフィルム、べたがけ資材等を使用して、地表面からの水分の蒸散を抑制する。
- 2 は種又は定植期にあたる野菜では、降雨を待つか、十分かん水を行って作付けする。
- 3 高温乾燥条件下で発生しやすいハダニ類、アブラムシ類、アザミウマ類等の早期発見に努め、的確な防除を行う。
- 4 開花前後、肥大期等乾燥による影響が大きな生育ステージにある作物では、可能な限りかん水を実施する。

### ◎露地なす

- 1 高温・乾燥が続くと「つやなし果」や「短形果」等の不良果が増加するので、敷わら等により乾燥を防止するとともに、適宜かん水を行って草勢維持に努める。
- 2 生長点付近の先端部分が細くなるなど草勢の低下がみられる場合は、追肥や不良果の摘果を行って、草勢の回復を図る。
- 3 ハダニ類、ミナミキイロアザミウマ等の発生に注意し、発見次第薬剤防除を行う。その際、整枝・誘引と摘葉を行って薬剤の付着効果を高める。

### ◎ねぎ

- 1 生育が遅延している育苗ほについてはかん水を行い、生育促進を図る。
- 2 幼苗、チェーンポット育苗では定植初期の乾燥の影響が大きいため、かん水チューブ等によるかん水を行い、活着促進を図る。ただし、過剰かん水には注意する。
- 3 アザミウマ類等の発生に注意し、発生初期から薬剤防除を行う。

### ◎さといも

- 1 畑かん施設があるほ場では、1回当たり20～30mm程度のかん水を行い生育促進に努める。
- 2 土壌が極度に乾燥している場合は、追肥や土寄せ作業を行わない。
- 3 高温乾燥によりアブラムシ類やハダニ類が発生しやすくなるので、発生初期から薬剤防除を行う。

### ◎えだまめ・スイートコーン

- 1 開花前後及び肥大期のものは、可能な限りかん水を実施する。
- 2 アブラムシ類等の発生に注意し、発生初期から薬剤防除を行う。

## 果 樹

### ◎共通事項

- 1 スプリンクラー等のかん水施設があるほ場では、1回概ね20mm程度で3～5日間隔でかん水を行う。土壌にひび割れができる前から始める。日中の高温時を避けて、夕方の時間帯に行うのがよい。
- 2 草生栽培園では、定期的な刈取りを実施する。
- 3 清耕栽培園では樹冠下に敷きわらを行い、地温上昇と地表面からの蒸散を防ぐ。
- 4 ハダニ類やナシヒメシンクイ等は、発生時期が早まり、発生量も多くなるので、病虫害防除所の発生予察等を参考に、適期に防除を行う。

## ◎なし

スプリンクラーの無い園では、夕方にスピードスプレーで棚面に10a当たり2000程度を散水すると樹体の温度や気温を下げるほか、ハダニ類の活動を抑制する効果がある。

## ◎ブルーベリー

根が浅く、乾燥により縮果が発生しやすいので、かん水を行うとともに株もとに敷きわらを行う。

### 花植木

- 1 露地切花は、可能な限りかん水に努める。
- 2 敷わら等により地表面からの蒸散を抑制する。
- 3 寒冷紗等の遮光資材を活用し、植物体温度の上昇を抑制する。
- 4 施設では内外部の遮光資材により温度の上昇を抑制し、循環扇等により通風を図る。

### 茶

- 1 マルチ、敷きわらなどにより土壌水分の保持に努める。また、雑草による水分の競合を避けるため除草を行う。その場合、細根を切るような深い耕うんは避け、表面を軽く耕うんする程度に行う。
- 2 整せん枝や農薬散布は高温時には葉焼けや薬害を生じる恐れがあるので高温が予想される晴天日は気温の下がり始める時間帯から始めるようにする。
- 3 棚施設などが設置された茶園では被覆遮光し、葉焼けなどの高温害を防ぐとともに過度の蒸散を抑制する。
- 4 定植当年の幼木は干ばつ害が懸念されるため、新植ほ場ではかん水、マルチ・敷きわらなどの対策を実施する。枯死個体が発生した場合は、翌春補植する。
- 5 チャノミドリヒメヨコバイ、チャノキイロアザミウマ、カイガラムシ類、カンザワハダニ、ハマキムシ類が多発することがあるので、適切に防除する。

◎農薬はラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分確認の上、最終有効年月までに使用してください。農薬の最新情報については、農産物安全課のホームページでご確認ください。

<http://www.pref.saitama.lg.jp/a0907/nb/arfdnouyakutourokukouhenkou.html>

◎農作業中の熱中症にご注意ください。

<http://www.pref.saitama.lg.jp/a0903/keieitai/nousagyouannzen/nettyuusyuu.html>